

東大推薦 秀峰初の合格者

水橋大瑤君 理科I類に



大学進学への抱負を語る水橋君

東京大学が推薦入試を導入して3年目となる平成30年度入試で、松本秀峰中等教育学校から初めての合格者が誕生した。普通科6年生の水橋大瑤君（18）は安曇野市穂高有明で、情報技術に関心を持ち、科学の大会で活躍した実績などにより理科I類（工学部）の合格を勝ち取った。松本秀峰では平成28年度の1期生が文科III類に、翌年度の2期生が文科I類に一般入試で合格しており、理系では初めての合格者となる。

（田子元気）

水橋君は安曇野市の穂高北小学校から「高いレベルで勉強したい」と松本秀峰に進学した。中学生のころにロボットの特別講座を受けたのをきっかけに情報技術の面白さを知り、技術書を読んで独学で勉強を重ねた。中学3年春に「基本情報技術者試験」に合格し、高校1年時には英語の技能を測る「GTIC（ジーテック）」でスコア700点（海外の大学で専門教育を受けられるレベル）を超えた。

高校2年時には経済産業省の「未踏IT人材発掘育成事業」の対象となった。全国の高校生が科学の知識や技能を競う「科学の甲子園」の全国大会に出場するなど、各種科学大会で経験を重ね、世界規模の大会に参加したこともあるという。

東京大学推薦入試の、1次試験の書類選考では高校時代のこうした活動が評価され、2次試験の面接を経た上でセンター試験の得点も加味されて2月7日に合格が最終決定しを身に付けたい」と話した。水橋君は「大学では情報のセキュリティは情報のセキュリティに関する暗号理論や人工知能（AI）について学びたい」とした上で、「一般教養まで幅広く学び、多角的な視点で」

松本秀峰によると、平成30年度の推薦入試は県内で3人が合格した。中信地域での合格者は水橋君が唯一だという。